

# 「食」と「環境」を未来の子供たちに ～みどりの食料システム戦略の策定～

農林水産省では、令和3年5月12日に「みどりの食料システム戦略～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～」を策定しましたので、その概要について紹介します。

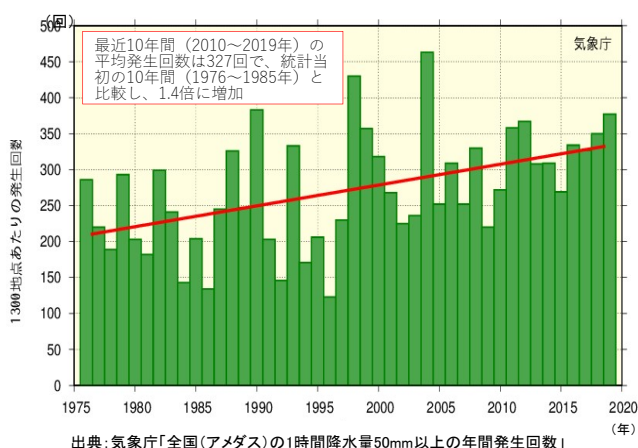
## 1. 戦略策定の背景

我が国の食料・農林水産業は、生産者の減少・高齢化等による生産基盤の脆弱化、地球温暖化やこれに伴う大規模災害の増加、新型コロナを契機としたサプライチェーンの混乱や生産・消費の変化など様々な課題に直面しています。

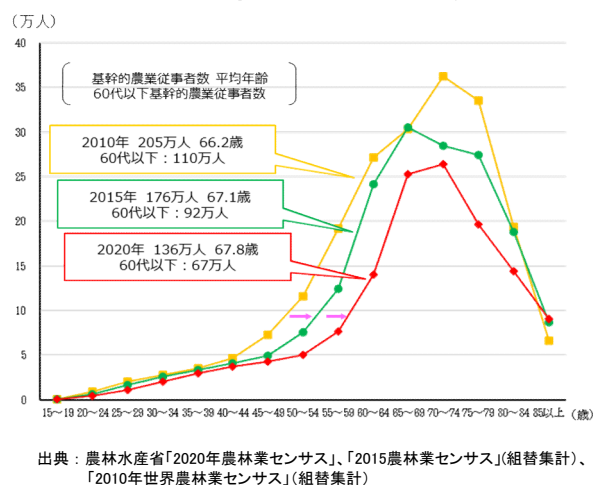
また、世界的にも、あらゆる産業で、地球環境問題やSDGsへの対応が重要視されており、こうした中で、食料の安定供給・農林水産業の持続的発展と地球環境の両立が強く求められるようになっていきます。

本戦略は、このような背景を踏まえ、食料システムを構成する関係者が、持続的な食料システムを構築するために、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階での取組と環境負荷軽減のイノベーションの推進を強力に後押しするために策定したものです。

1時間降水量50mm以上の年間発生回数



担い手の高齢化と担い手不足

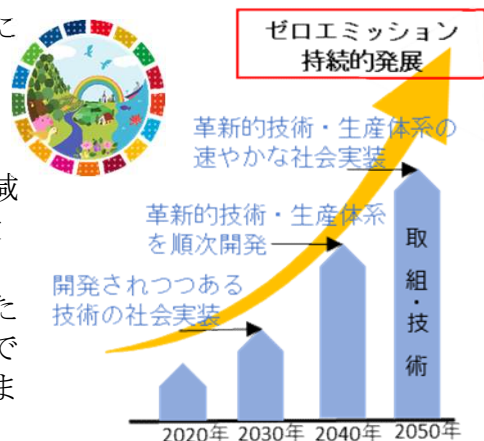


## 2. 目指す姿と取組方向

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す姿として、農業関係では、

- ①農林水産業のCO<sub>2</sub>ゼロミッション化の実現
- ②化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- ③輸入原料等からなる化学肥料の使用量を30%低減
- ④有機農業の取組面積割合を25%（100万ha）に拡大を主な目標として掲げています。

これらの目標をイノベーションにより実現させるために、今ある技術の横展開を進めながら、2040年までに、革新的な技術・生産体系を順次開発し、2050年までに、その社会実装を実現することとしています。



| 「みどりの食料システム戦略」が2050年までに目指す姿と取組方向（一部抜粋） |           |                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 温室効果ガス削減                               | 温室効果ガス    | ・ 2050年までに農林水産業のCO <sub>2</sub> ゼロエミッション化の実現を目指す。                                                                                                       |
|                                        | 農林業機械・漁船  | ・ 2040年までに、農林業機械・漁船の電化・水素化等に関する技術の確立を目指す。                                                                                                               |
|                                        | 園芸施設      | ・ 2050年までに化石燃料を使用しない施設への完全移行を目指す。                                                                                                                       |
|                                        | 再生可能エネルギー | ・ 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、農林漁業の健全な発展に資する形で、我が国の再生可能エネルギーの導入拡大に歩調を合わせた、農山漁村における再生可能エネルギーの導入を目指す。                                                          |
| 環境保全                                   | 化学農薬      | ・ 2040年までに、ネオニコチノイド系農薬を含む従来の殺虫剤を使用しなくてもすむような新規農薬等を開発する。<br>・ 2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す。                                                         |
|                                        | 化学肥料      | ・ 2050年までに、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の30%低減を目指す。                                                                                                           |
|                                        | 有機農業      | ・ 2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができるよう、次世代有機農業に関する技術を確立する。<br>・ 2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業※の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大することを目指す。（※国際的に行われている有機農業） |

### 期待される効果

#### 経 済

持続的な産業基盤の構築

#### 社 会

国民の豊かな食生活  
地域の雇用・所得増大

#### 環 境

将来にわたり安心して  
暮らせる地球環境の継承

### 3. 農業生産基盤整備における取組

本戦略で目指す、有機農業、化学農薬や化学肥料を減らした生産方式は、通常よりも多くの労力を必要とします。このため、農業生産基盤整備では、こうした持続性の高い生産方式の拡大を後押しするため、省力化が図られるほ場の大区画化やICT水管理施設の導入をこれまで以上に推進することとしています。

また、CO<sub>2</sub>ゼロエミッション化の実現に向けて、エネルギー使用量の大きいポンプ場などの省エネルギー化、農業用水を活用した小水力発電等の再生可能エネルギー導入の推進などに取り組んでいくこととしています。



ほ場整備による大区画化



ロボットトラクター



小水力発電施設

農林水産省の「みどりの食料システム戦略」のホームページ（下記URLまたはQRコード）では、関連資料や戦略について説明した動画をご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

